

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人静岡県文化財団
施設名	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ
内定額	14,517 (千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		329	329
年間事業本数（※1）	主催事業	44	34
	公演事業	19	14
	（内、本助成対象事業本数）	0	5
	人材養成事業	2	2
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	普及啓発事業	18	14
	（内、本助成対象事業本数）	7	5
	その他 内容： 美術展、親子向けイベント等	5	4
貸館日数	ホールごとの貸館日数	968	947
	ホール名：大ホール 座席数：最大4,626	169	149
	ホール名：中ホール 座席数：760～1,209	206	206
	ホール名：交流ホール 座席数：最大400	183	185
	ホール名：展示ギャラリー 座席数：0	188	189
	ホール名：会議ホール 座席数：最大380	222	218

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	74,390	94,906
	公演事業	14,552	10,850
	人材養成事業	515	287
	普及啓発事業	4,224	3,081
	その他 内容： 美術展、親子向けイベント等	55,099	80,688
	貸館事業入場者・参加者数	498,373	491,427
	その他 内容： 記入してください		
	計	572,763	586,333
施設の利用率(%)		76.7%	75.9%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	19	22	14,552	62.0%	1	12		2	2		2
	共催・提携公演（※2）	7	8	3,758	73.0%	1	4		1			1
	貸館公演（※3）	67	68	57,127	72.0%		32	17			10	8
	計	93	98	75,437								
令和6年度	主催公演（※1）	14	23	10,850	72.5%		11		1	1		1
	共催・提携公演（※2）	9	11	7,494	77.1%	1	6		1			1
	貸館公演（※3）	82	82	52,246	69.0%	2	25	21			12	22
	計	105	116	70,590								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	グランシップ 世界のこども音楽劇場2024	目標 値	1,900	84.4%	観客の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階の割合が90%以上	99%	観客アンケートにおいて、目標とする満足度、新規観客を上回る成果を上げた。		
		実績 値	1,002	52.7%	当該公演を目当てに新規で来場した観客数	アンケート回答者のうち、30%以上	70%			
公-02	NHK交響楽団 名曲コンサート	目標 値	900	94.8%	観客の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階の割合が90%以上	99%	観客アンケートにおいて、目標とする満足度、リピーター率を上回る成果を上げた。		
		実績 値	893	99.2%	グランシップでのオーケストラ公演のリピーター率	アンケート回答者のうち2回目以上が40%以上	67%			
公-03	グランシップ ジャズ・ライヴ「バンクシア・トリオ & アン・サリー」	目標 値	480	80.0%	観客の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階の割合が90%以上	98%	観客アンケートにおいて、目標とする満足度、新規顧客を上回る成果を上げた。		
		実績 値	473	98.5%	当該公演を目当てに新規で来場した観客数	アンケート回答者のうち、20%以上	35%			
公-04	【グランシップ出前公演(磐田市)】東京フィルハーモニー交響楽団 名曲コンサート	目標 値	1,000	67.0%	観客の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階の割合が90%以上	99%	観客アンケートにおいて、目標とする満足度、再演期待数を上回る成果を上げた。特にオーケストラ公演の再演を希望する人は100%となり、期待度が高いことが明らかとなった。		
		実績 値	1,338	#####	当該地域でのオーケストラ公演の再演期待者数	アンケート回答者のうち20%以上	100%			
公-05	グランシップ25周年記念 グランシップ伝統芸能シリーズ「グランシップ静岡能」	目標 値	600	68.3%	観客の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階の割合が90%以上	97%	観客アンケートにおいて、目標とする満足度、リピーター率を上回る成果を上げた。特にリピーター率は高く、これまでの同シリーズの継続的な実施の効果と見られる。		
		実績 値	550	91.6%	当該シリーズ公演のリピーター率	アンケート回答者のうち2回目以上が40%以上	70%			
公-06	グランシップ寄席～入船亭 扇遊・三遊亭兼好 二人会～	目標 値	270	90.0%	観客の満足度	アンケートの5段階評価で上位2段階の割合が90%以上	98%	観客アンケートにおいて、目標とする満足度、リピーター率を上回る成果を上げた。		
		実績 値	277	#####	当該シリーズ公演のリピーター率	アンケート回答者のうち2回目以上が40%以上	48%			
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	①観客満足度 ②劇場友の会会員数 ③劇場への支持、信頼度	①全事業の8割で、観客満足度の目標達成 ②前年度より1,000名増 ③アンケートで「今後も来場したいか」の質問に「はい」と回答する人が平均で90%以上	①全事業において、観客満足度の目標を達成した(100%) ②劇場友の会会員数が、令和5年度末13,965人から令和6年度末16,722人となり、2,757人増加した ③全事業のアンケートで「今後も来場したいか」の質問に「はい」と回答した人は平均で98%であった	・アンケートによる観客満足度は全事業で目標を達成し、観客の期待に応えることができた。 ・劇場友の会の会員数が2,757人増となり、実施事業全体の魅力を高いものにできたことが要因と考えられる。 ・公-02「NHK交響楽団」と、公-06「グランシップ寄席」は完売となり、観客の期待度と評価が高かったと考えられる。		
人材養成事業						
普及啓発事業	①全事業の参加者数 ②学校等館外での受入先の評価 ③参加者の反応 ④教育機関等との連携事業における担当教員のコメント収集	①7事業中3事業で目標参加者数を達成、総参加者数6,000人 ②また実施してもらいたいとの回答が80%以上 ③アンケート回答者の80%以上が「また参加したい」と回答 ④年間20件以上	①7事業中5事業で目標参加者数を達成、総参加者数7,524人 ②また実施してもらいたいとの回答が98% ③アンケート回答者のうち「また参加したい」と回答した人は98% ④374件	・目標とする参加者数を達成することができた。 ・受け入れ先、参加者とも「また実施してほしい」、「また参加したい」と希望する声が聞かれ、期待とニーズの高さを改めて認識した。 ・教員のコメント収集については、WEBアンケートを周知することで回答数を予定より大幅に多くすることができたと考えられる。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・公-01「グランシップ世界のこども音楽劇場」では、太鼓芸能集団「鼓童」と協働で子ども向けプログラムを新規で企画。さらに過去のグランシップ公演で「鼓童」にオリジナル曲を創作依頼した静岡県立駿河総合高校和太鼓部の生徒が公演時にワークショップの指導役として参加し、子どもたちに和太鼓の楽しさを伝える機会を創出。地域で活動する高校生が文化の継承に寄与した。

・公-05「グランシップ静岡能」では、大河ドラマで取り上げられた「源氏物語」、静岡ゆかりの演目「小袖曽我」、「羽衣」などを上演。またロビーでは静岡県内で能楽とゆかりのある演目や地域のエピソードを紹介するコーナーを設け、初心者でも関心を持ちやすい環境づくりが鑑賞をより充実したものにする一助となった。

・普-01「グランシップ子どもアート体験！学校プログラム」において、グランシップ登録アーティストの育成と実施経験が積み重なり、小規模校や特別支援学校の特性に合わせた個別のプログラム作成が各学校から好評を得ている。

・普-01「グランシップ子どもアート体験！学校プログラム」をはじめ、県内全域での事業実施により、学校等が継続的に参加する傾向がみられ、多彩なプログラム展開により、本事業への期待と効果が高いと考えられる。特に、文楽、狂言、講談、浪曲などの日本の伝統芸能のオリジナルプログラムは生徒だけでなく、教員も体験する機会が少なく、貴重な機会と好評を得ている。また、実施後に教員の意見を収集することで、より効果的な内容に改善して実施するサイクルができています。

・普-02「グランシップ伝統芸能普及プログラム」では、大学生向けのプログラムを複数企画し、伝統芸能との出会い、実演家との交流、社会における劇場の役割などを学生に伝える機会となっている。

・普-03「グランシップ静岡能 能楽入門公演」では、公演に付随する能楽教室に小学生の頃から大学生まで参加した男性が、大学を卒業し、現在は社会人となって能楽教室の指導役として参加するようになり、継続的に実施する重要性、伝統芸能の次世代への継承が見られた。

・普-05「グランシップ ビッグバンド・ジャズ・フェスティバル」は、県内のアマチュアバンドとともに対話を重ねながら実施し、ロビーにおける子ども向けの楽器体験コーナーのサポートをバンドメンバーが積極的に行うなど、劇場と県民が協働で事業に取り組むことができている。

・普-06「グランシップ出前公演 中高生のためのオーケストラ」では、出前公演先の劇場(磐田市民文化会館)と協力し、磐田市内の中学校の費用を劇場が負担することで市内の中学校が参加しやすく、多くの学生が本格的なオーケストラの演奏に触れられる機会となった。

・普-07「ウィーンの風」では、静岡県立清水南高校と連携し、ウィーンの演奏家と県内で音楽に取り組む中高生が交流、演奏指導を受けられる機会を創出した。

・静岡ゆかりのアーティストを積極的に活用することで、県民のシビックプライドを高めるとともに、静岡ゆかりのアーティストのアイデンティティも改めて認識する機会となっている。

評価項目②:国際性(任意)

。
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①海外の作品を招聘する国内フェスティバルと連携し、海外作品や海外の芸術家を招聘する公演数	①公演事業、普及啓発事業合わせて4本	①4本	①公-01「グランシップ世界のこども音楽劇場」では、沖縄県で行われるりっかりっかフェスティバルと連携し、デンマークのカンパニーによる作品を招聘。公-04「東京フィルハーモニー交響楽団」、普-06「中高生のためのオーケストラ」では、海外の指揮者による公演を実施。普-07「ウィーンの風」では、ウィーンで活躍するアーティストが静岡県の中高生との共演を果たした。		
②在日外国人や国際交流協会との連携による外国人が来場する公演数	②公演事業、普及啓発事業合わせて2本	②2本	②公-01「グランシップ世界のこども音楽劇場」は、磐田市国際交流協会が地域の子どもたちや在日外国人を取りまとめて鑑賞。また、普-06「中高生のためのオーケストラ」では、県立ふじのくに中学校(夜間中学)に通う在日外国人の生徒が参加した。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・公-01「グランシップ世界のこども音楽劇場」で実施したデンマークの作品「あなたはここ」では、終演後にアーティストと来場者が交流できる時間を設け、子どもたちが言葉の壁を超えて対話する様子が多く見られた。 ・普-06「グランシップ出前公演 中高生のためのオーケストラ」では、指揮者のアンドレア・バッティストーニが、中高生に向けて自身が音楽と出会った経緯、当初はあまり積極的になれなかったが、現在は指揮者として活動しているエピソードなどを披露し、中高生にとって親しみのあるあたたかな演奏会となった。また、県立ふじのくに中学校(夜間中学)の在日外国人の生徒が、自身が暮らす地域で舞台芸術に触れられる機会となり、教育機関と連携する重要性を改めて確認した。 ・普-07「ウィーンの風」では、ウィーンで活躍する演奏家が公演前日に静岡県立清水南高校を訪問。管弦楽部の指導にあたり、翌日の共演に向けて交流を深める機会となった。地方において世界の第一線で活躍する演奏家と触れ合う機会は少なく、音楽に取り組む学生にとって大変有意義な時間となった。学生たちが積極的に英語でのコミュニケーションを取ろうとする様子が見られた。
--

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①市民ボランティアの登録数 ②連携する教育機関(小学校、中学校、高校、大学)の事業本数 ③教育機関との連携事業において、担当教員のコメントを収集 ④中高生鑑賞プラン利用人数 ⑤中高生鑑賞プランに伴う交通費支援の利用人数 ⑥劇場友の会会員数 ⑦貸館利用者の満足度	①前年度比15人増 ②前年度比5校増 ③年間20件以上 ④前年度比110%以上 ⑤前年度比110%以上 ⑥前年度より1,000名増 ⑦利用者アンケートで「満足」「ほぼ満足」が80%以上	①令和5年度末108人⇒令和6年度末110人 ②令和5年度58校⇒令和6年度99校 前年度比41校増 ③374件 ④令和5年度2,249人⇒令和6年度4,531人 前年度比201.4% ⑤令和5年度2,414人⇒令和6年度3,434人 前年度比160.3% ⑥令和5年度末13,965人⇒令和6年度末16,722人となり、2,757人増加 ⑦86.7%	①は目標に達しなかったが、②～⑦においては目標を達成することができた。 コロナ禍を終えて、学校等の教育機関の活動も活発化し、県内全域に渡り様々な活動を展開することができた。 学生の来場も多く、グランシップでの多彩な文化芸術体験の機会を提供することで、将来に渡り、県民のシビックプライドの確立に寄与する一助となった。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・オーディションを経て採用した静岡ゆかりのアーティストを「グランシップ登録アーティスト」とし、アウトリーチ事業やロビーコンサートなどで活用し、地域の文化資源を活用した取り組みができている。
・新型コロナの影響により、これまで校外活動、校外の講師を招く活動を控えていた学校が、児童生徒の様々な体験機会を創出しようと積極的に動きはじめ、中高生向けの事業で高い参加者数になった。それに伴い、交通費支援の利用人数も多くなった。県立劇場としてグランシップからの距離に関わらず、全県の児童生徒が体験しやすい環境を創出し、ニーズに応えることができた。
・劇場友の会会員数は昨年度より2,700人以上増加し、グランシップに対する地域文化拠点としての期待や信頼が高くなっている。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①28歳以下の学生料金(1,000円)の利用者数	①支援事業以外も含めて5,000人以上	①6,075人	・字幕サービスのタブレットや演劇での台本貸し出しなど、はじめての取り組みに挑戦できた。字幕サービスについては、対応できない部分をどのようにカバーしていくかの課題も明確にすることができた。 ・ひとり親家庭への公演招待制度を開始し、劇場から遠方でも来館してもらうことができ、県内全域にアプローチできるツールを開拓できた。 ・アウトリーチでは、東西南北に広い(東西115km、南北118km)静岡県において、全域での活動を行い、特に小規模校、グランシップからの遠方の学校での実施に注力したことで、アクセスしにくい地域での文化芸術体験の機会を提供した。		
②障害者向け情報保護の利用数	②支援事業以外も含めて字幕タブレット、台本貸出数 5件以上	②タブレット貸出41件+各自のスマートフォンでの字幕表示利用者数十件、台本貸出2件			
③ひとり親家庭の子どもと保護者の公演招待	③支援事業以外も含めて10人以上	③ひとり親家庭のこどもと保護者の招待人数 424人			
④アウトリーチ事業の実施数と地域	④支援事業以外も含めて、県内(伊豆・東部・中部・西部)全域に渡り10箇所以上	④県内(伊豆・東部・中部・西部)で23公演			

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・実施プログラムは音楽、伝統芸能、話芸に加え、助成事業以外の美術等にも取り組み、多様なプログラムで幅広い観客や参加者に訴求している。
・多様なプログラム実施により、アーティストやスタッフとして参加する人は、アマチュアからプロ〜重要無形文化財総合指定保持者まで様々な属性を持っている。また国内外のアーティストが参画している。
・普-01「グランシップ子どもアート体験！学校プログラム」、普-02「伝統芸能普及プログラム」、普-06「中高生のためのオーケストラ」は、小学校、中学校、高校、特別支援学校などの教育機関と連携して行い、子どもたちの社会的状況に関わらず、多彩な実演芸術に触れられる機会となっている。
特にグランシップ登録アーティストを活用したアウトリーチでは、実施校の地域性、特別支援学校における生徒の障害の特性に合わせたオリジナルプログラムを構築し、体験機会がより良いものになるよう努めている。
・公-05「グランシップ静岡能」において、はじめて能サポの字幕サービスを実施し、耳の不自由な方々がはじめて能を鑑賞したという声を受けた。また、健常者でも能楽上演中の聞き取りにくい言葉を文字で追うことができ、理解が深まったという感想を得た。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	今年度より県内企業向けの新規協賛制度を設け、普及事業や子どもたちが社会環境に左右されない文化芸術体験機会の提供に活用できるよう取り組んでいる。	参加企業数:3社以上 200万円	5社350万円	県内企業に1口50万円の協賛金を依頼し、5社7口350万円を獲得した。次年度以降も継続できるよう努力する		
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	広報・営業を担当するグループを設け、券売や会員増に努めている。			広報・営業グループが事業全体の券売、会員増に努め、目標に達することができた		
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	県内外の劇場と連携し、効率的な事業運営を行っている。			助成事業以外でも県外の劇場と連携し、効率的な運営で地方で上質な作品を上演することができた		
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	設置者と常に連携しながら、事業運営を行っている。			設置者である静岡県と日常的に連携し、人材の交流を行った		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	宮城聰館長、各ディレクターを配置し、文化事業を担う職員の専門性も高めている。			館長、伝統芸能・教育普及のディレクター、音楽事業のディレクターを配置し、文化事業を担う職員のキャリアも形成されている		
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	経営責任者となる専務理事兼事務局長が常勤し、中長期的な視点のもと財団経営を担っている。			経営責任者となる財団専務理事兼事務局長が常勤し、中長期計画を元に財団経営を担っている		
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	文化事業を担うセクションにおいて、当財団以外の県内市町の会館における人材育成の研修などの取り組みを行っている。			当劇場を含む県内市町の劇場職員、文化行政を担当する職員を対象に人材育成の研修を実施		
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	グランシップ館長、支配人、ディレクターを配置し、各職員も専門性を生かした役割分担を行っている。			グランシップ館長、支配人、ディレクターを配置し、文化事業を担う職員もキャリアを生かした役割分担を行っている		
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	長期、短期のインターンシップの実施、計画的な採用制度を設定し、人材確保に努めている。			長期、短期のインターンシップを実施することで劇場に関心のある人材確保に務めている		
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	女性職員が多く、プロパーの女性管理職の実績ができています。			女性管理職の比率は30%に満たないが、リーダー職への登用向上に努めている		
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	仕事、育児、介護と両立できる制度が充実し、勤務シフトや休暇も自由度が高い。			仕事、育児、介護と両立できる制度が充実し、勤務シフトや休暇取得も自由度が高く、柔軟に対応している		
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	情報セキュリティやコンプライアンスの順守規定を策定し、運用している。			情報セキュリティやコンプライアンスの順守規定を策定し、運用している		
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	パワハラ、セクハラ等防止のための指針や相談窓口を設置している。			パワハラ、セクハラ等防止のための指針や相談窓口を設置している		
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	全ての業務について、契約書等文書で取り交わし、クリアな会計業務を行っている			全ての業務について契約書等文書で取り交わし、複数のチェック機能のもと、クリアな会計業務を行っている		

4. 総評

・団体の自己評価

・グランシップのミッションである「鑑賞機会の提供」、「社会包摂・国際文化交流」、「地方の県立劇場としての存在意義」やビジョンを踏まえた自主事業を展開し、県内全域において多様な文化芸術に触れる機会を創出した。全ての活動において概ね当初の目標を達成することができた。

・公演事業については、すべての目標値を達成し、多彩な公演を実施することで観客の高い満足度を得ることができた。公-01「グランシップ世界のこども音楽劇場」内の東京藝術大学と連携したプログラムでは、グランシップの施設の特性を生かし、子どもたちの充実した体験機会、鑑賞機会を提供した。本事業に関心を持った県内の大学生が、公演日に取材に訪れ、静岡県が発信する「ふじのくにメディアチャンネル」にリポートが掲載された。

・普及啓発事業では、県内26箇所ですべて33回のプログラムを実施し、子どもから大人まで、多様な形態で文化芸術に触れられる環境づくりに務めた。公演に関連した普及啓発事業も実施し、新たな鑑賞者の創出、作品への理解を深める機会となり、劇場を中心とした文化芸術の振興を進めた。

・普-05「グランシップビッグバンドジャズフェスティバル」では263人の県民が出演し、客席はフルフラットで車椅子利用者やベビーカーがいつでも入退場できるバリアフリーの要素も大いに取り入れ、施設の特性を生かした事業で好評を得た。

・助成対象外の新たな事業にも取組み、県外複数の劇場との連携、友の会会員増への貢献等の成果を上げることができた。

・静岡県出身、ゆかりの芸術家の積極的な活用、静岡ゆかりの演目を紹介するなど、地域の文化資源を生かすことができた。

・全体を通して、国際性を高めることが今後の課題と考えるが、普-07「ウィーンの風」では、事業実施により地方で音楽を学ぶ学生がウィーンの演奏家から直接指導を受け、公演で共演する等、貴重な体験の機会を創出することができ、地域の劇場としての役割を果たした。

・一部では目標の入場者に達することができない事業もあり、公演等の魅力を的確に発信し、ターゲットに応じた広報展開が必要であると考えている。

・教育機関でのアウトリーチ(普-01「グランシップ子どもアート体験！学校プログラム」)においては、全県域から希望を取る一方、実施希望校すべてに対応できていない実情もあり、人材や予算の確保が大きな課題である中、子どもたちの体験機会の喪失となっているため、改善できるよう努力したい。

・所見

